

# 学校だより

平成25年3月13日

## すばらしかったお別れ集会

3月7日（金）、卒業生と在校生のお別れ集会をしました。それぞれの学年がこれまで財光寺小の中心となって、みんなをひっぱってくれた卒業生に対する感謝の気持ちを込めて、心に届く歌を披露してくれました。1年生は、特に、給食の配膳やそうじの手伝いなど、卒業生には年間を通してお世話してもらってきたので、一人一人が手作りのメダルを卒業生全員の首にかけてあげました。

最後は、卒業生も歌を披露してくれました。さすがに卒業していくみんなの声は自信に溢れ、「わたしを見てください」「私の歌声を聞いてください」と言える声でした。でも、まだ練習の途中だということでしたので、当日はより完成した歌声を



来賓のみなさまや保護者の（体育館に飾られた卒業を祝うメッセージ）みなさまに聞いていただけていると思っています。

まだ式当日までもう少しありますが、だんだん近づいているなあと感じる情景でした。また、式の練習自体も少しずつ積んでいますが、卒業生自身もいよいよなんだと感じながら毎日をお過ごしていることでしょう。そして何より校内での過ごし方や生活態度が立派なことにととても感激しています。

（写真左：お別れ集会での卒業生）

## お別れ遠足も晴天でした

3月8日（金）にはお別れ遠足も実施しました。天候に恵まれ、初めての場所である矢野産業の広場をお借りしました。これまでは、伊勢ヶ浜に行っていましたが、東日本大震災の発生を受け、場所を変更しました。この広場はとても広く、同じ場所で全学年過ごすことができるので、遠足の場所としては、よいところだと思います。ただ、



当日は学年ごとに大まかな場所を決め、思い思いの楽しみ方で過ごしました。楽しい思い出ができました。

ひとつ困ったことは、黄砂だとかPM2.5だとかといった物質が飛来してくるということです。マスク等をしてよいことにしましたが、今後も警戒をしながらの実施になることはしていきたいと考えています。（写真左：みんなでお弁当の時間）

## 教育の原点について

まもなく、卒業式を迎えますが、式というものの雰囲気には独特のものがあります。しかし、あの雰囲気こそが最も大切な「教育の原点」ではないかと考えます。「教育的雰囲気」の中に身を置くことで、静粛な気持ちになり、いろいろなことを考え、希望が湧いてきて、決心する心が芽生えたり、夢を育んだりすることができるのではないかと考えます。そういう意味では、厳粛な気持ちになる卒業式、入学式といったことは形式ばった所作を要求されることで緊張感を伴いますが、それをやりきろうとする態度はやはり「教育」であり、何かを身に付けて成長すると思っています。第67回卒業式は3月25日（月）です。

（文責：本山）